



ソフトウェア活用 新訂版

改訂教科書のご案内

元 東京都立江東商業高等学校教諭 小倉 俊悦

1. 教科書の特長と工夫した内容

学習指導要領では、学習内容を5章としているが、本書では6章で編成し、学習の効率化・利便性の向上を図っている。今回の改訂では、新規用語の追加と工夫・改善で、さらなるブラッシュアップを目指した。

1章「企業活動とソフトウェアの活用」

1節「ビジネスにおけるソフトウェアの活用」では、オンプレミスとクラウド、デジタルトランスフォーメーション(DX)、SaaS・PaaS・IaaSなどのソリューションサービス、デジタル観光プロモーション、センシング技術とソフトウェアへの活用など、様々な最新技術と用語を数多く取り上げている。今回の改訂では、クラウド・バイ・デフォルトの原則やAIの活用例などを追記した。

2章「情報通信ネットワークの活用」

1節「情報通信ネットワークの導入と運用」では、RASISやMTBF、MTTR、稼働率、フォールトトレラントシステム、さらにはフェールセーフやフェールソフト、プルプルーフなどの用語を大幅に追加した。また、新たにPoEによる電源確保を取り上げ、ネットワーク構築の参考例とした。

3章「表計算ソフトウェアの活用」

2節「表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ」では、日程管理で用いられるアローダイアグラムやクリティカルパス、表計算ソフトウェアによる解法、さらにゲームの理論についても新たに取り上げている。今回の改訂では、巻末の関連語句で、新たにクラスター抽出法や系統抽出法など各種のデータ抽出法を追記した。

4章「データベースソフトウェアの活用」

1節「ビジネスとデータベース」では、データハ

ウスやデータマイニング、データベースの信頼性と整合性を保証するACID特性（原子性・一貫性・独立性・耐久性）などの用語を追加した。

2節「データベースの作成と操作」では、構成を見直し、データベース作成の流れが一覧で理解できるように紙面を工夫した。

4節「データベースの構造」では、データの正規化の手順を大幅に書き改め、内容を刷新した。

5章「業務処理用ソフトウェアの活用」

各節共通で、①各ソフトウェアの概要と導入のメリット、②各ソフトウェアの実例（代表的なソフトウェアで記述）と活用実習（クラウド型フリーソフトウェアで記述）の構成としている。また、新たに軽減税率やインボイス制度、マイナンバー制度に関する解説を記述した。

6章「情報システムの開発」

1節「システム開発の基礎」では、最新の開発モデルであるアジャイル開発でユーザストーリーやスクラムチーム、プログラミング手法でローカル変数やグローバル変数などの用語を追記した。

3節「情報システムの開発演習」では、表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアによるシステム開発演習が終了後、両者の連携演習ができるように構成している。

全章

考察問題「考えてみよう」を大幅に追加した。

2. メッセージ

商業で学ぶすべての生徒が、本書『ソフトウェア活用 新訂版』を学習し、企業活動において、組織の一員としての役割を大いに果たすことを期待している。